

令和2年4月17日（金）
利根川水系渇水対策連絡協議会
（事務局：関東地方整備局）

記者発表資料

令和2（2020）年度
第1回利根川水系渇水対策連絡協議会
幹事会（春季定例会）の開催結果について

1. 開催状況

日 時：令和2年4月16日（木）

場 所 等：新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、書面による議事となりました。

協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構

協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。

2. 開催結果

別紙のとおり

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、
都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、水資源記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課 河川環境課長 あかみち 赤道 しょうご 正悟（内線）3651 建設専門官 つちや 土屋 ひでき 英樹（内線）3652	住所 〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館 電話 （代 表） 048-601-3151
---	--

現状と今後の対応

(1) 現状

- 降水量（栗橋地点上流域平均）の状況
 - 1月の降水量は76mm（平均値に対する割合173%）
 - 2月の降水量は25mm（平均値に対する割合53%）
 - 3月の降水量は99mm（平均値に対する割合148%）
 - 4月13日までの累加降水量は55mm（4月の累加降水量の平均値は90mm）
- 積雪の状況（4月15日9時現在）
 - 藤原ダム地点 積雪深0cm（3月31日に消雪）
 - 尾瀬沼地点 積雪深152cm（平均値に対する割合75%）
- 利根川上流9ダムの貯水状況（4月14日0時現在）
 - 貯水量は同時期の平均貯水量を大きく上回っています。
 - 貯水量4億9,297万m³、貯水率89%、平均値に対する割合153%

(2) 今後の見通し

- 気象庁発表の気象情報（1ヶ月予報；4月11日から5月10日までの天候見通し）によると、向こう1ヶ月の降水量は「平年並み」の確率が40%となっています。
- 利根川上流5ダム（矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、菌原）は、3月18日までに満水となっており、今後の降雨と融雪水により、満水に近い状態が続く見込みですが、今年は、ダムの水源地となる山岳部で平年を下回る積雪であるため、例年より融雪量が少ないと見込まれることから、ダムの補給が早まることも予測されます。
- また、今後は水需要の多い時期になることから、降雨状況によっては、利根川上流9ダムの貯水量が不足すること考えられます。
- 鬼怒川上流4ダムの貯水量は同時期の平均貯水量を上回っておりますが、今後、下流の農業用水等水需要に対して必要な水量を確保するため、降雨状況によっては、貯水量が不足すること考えられます。

(3) 今後の対応

- 利根川上流9ダム、鬼怒川上流4ダム等は、上流域の融雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮するとともに、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。
- ダム群の貯水量の状況や積雪及び降水量の状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。
- 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

令和2年度 第1回利根川水系渇水対策
連絡協議会幹事会（春季定例会）

利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



矢木沢ダム上流部（令和2年4月7日撮影）

令和2年4月16日

関東地方整備局

1. 利根川上流9ダム等の現状

(1) 利根川

1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和2年4月13日までの降水量）

《令和元年》

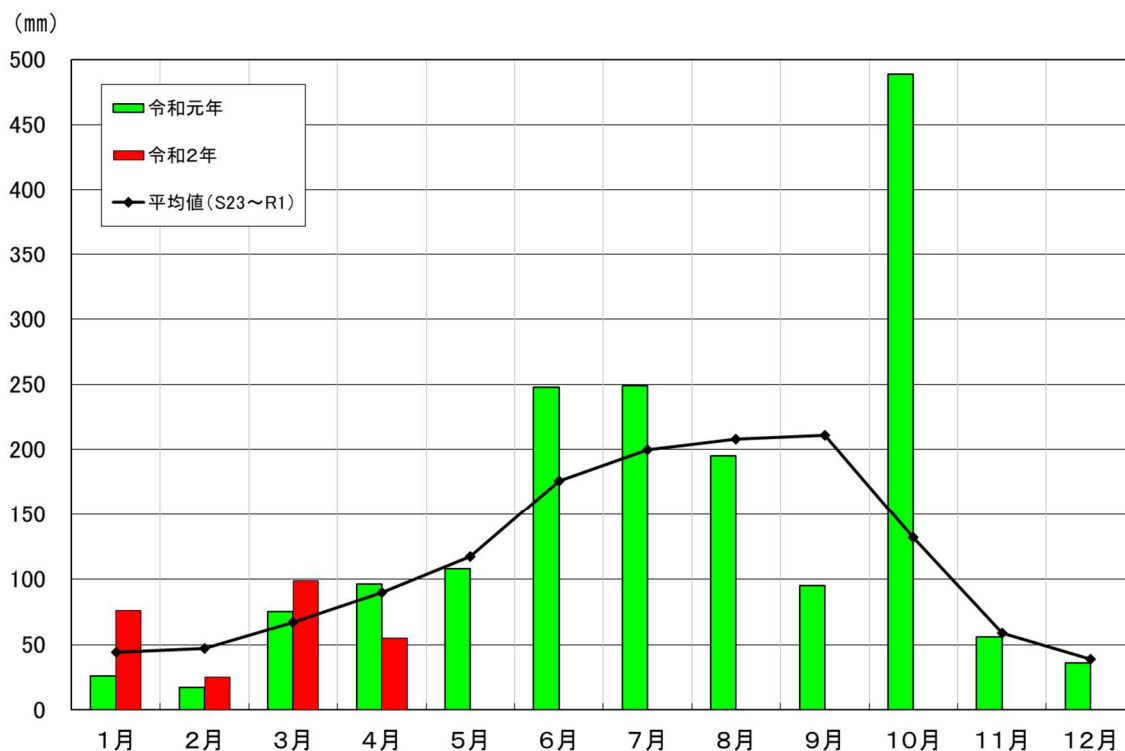
10月は令和元年東日本台風（台風19号）等の影響により489mm（平均値132mm）と平年を大きく上回り、11月、12月は平均値並みの降水量でした。

《令和2年》

1月、3月は平均値を上回りましたが、2月は、25mmと平均値の5割程度の降水量でした。

4月の降水量は、13日までの累加で55mmとなっています。（4月の降水量の平均値は90mm）

（図－1、表－1参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量

表－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（平成31年4月18日まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘 要
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	〃
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成19年	34	21	38	67	126	159	262	116	380	137	27	53	1,420	(少雪年)
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	221	85	55	47	1,395	利根川夏渇水
平成25年	43	38	20	134	46	168	152	153	244	224	24	48	1,294	〃
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431	〃
令和元年	26	17	75	96	108	248	249	195	95	489	56	36	1,690	-
平均値 (S23～R1)	44	47	67	90	117	176	200	208	211	132	59	39	1,390	-
令和2年	76	25	99	55	-	-	-	-	-	-	-	-	255	-
平均値に対する割合 (%)	173	53	148	61	0	0	0	0	0	0	-	-	18	-

※ ■ : 利根川取水制限実施月（一時緩和含む） ※栗橋上流域面積:8,588km2

2) 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の雪の状況（令和元年～令和2年 冬期）

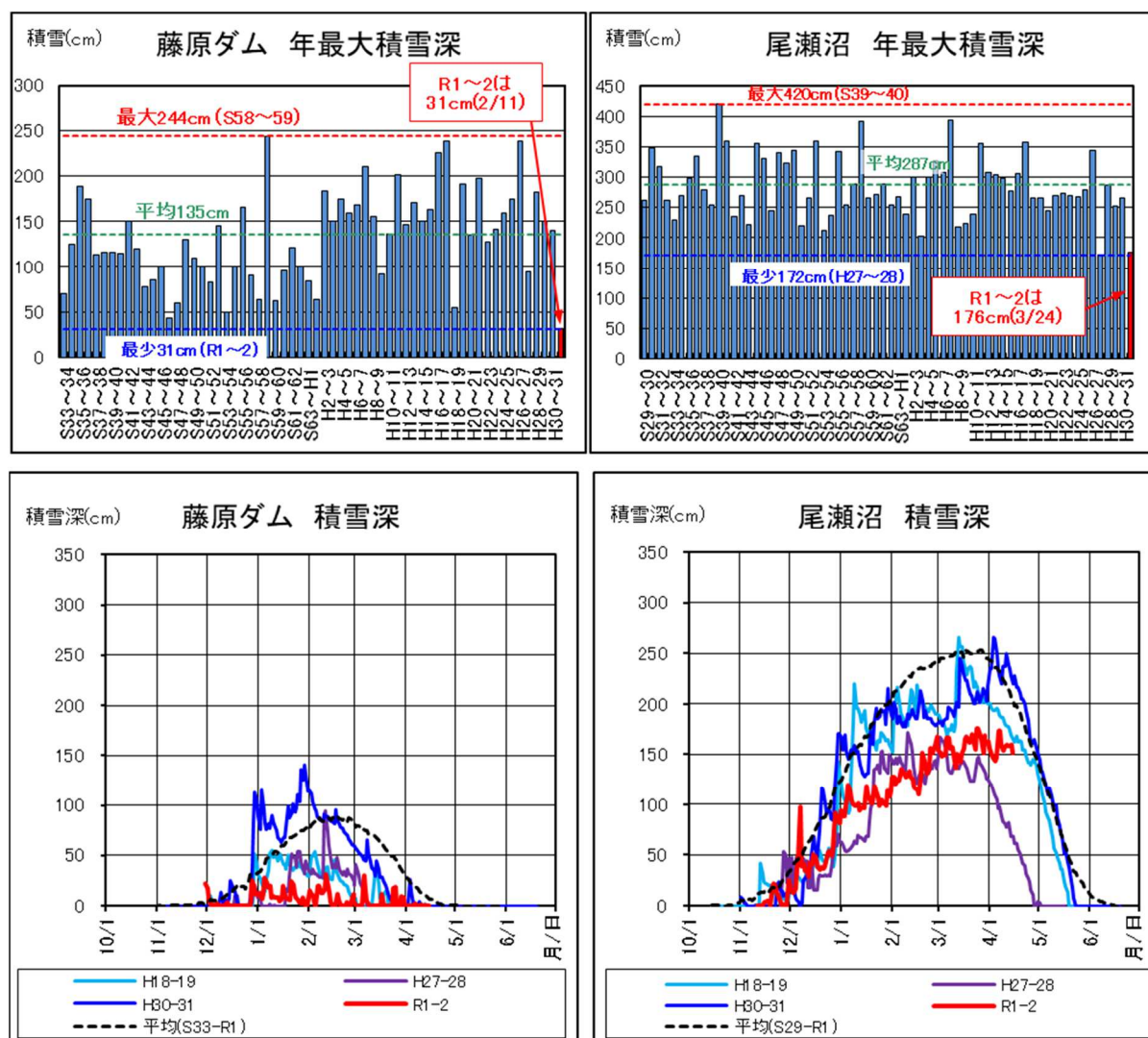
《積雪状況》

令和元年11月以降の積雪状況は、藤原ダム地点は11月30日に初冠雪となり、記録的な暖冬・少雪の影響で、積雪深は平均値を下回ったまま推移しました。2月11日に今冬期の最大積雪深31cm（昨期は1月29日に140cm）を記録し、3月31日に消雪しました。

尾瀬沼地点は、11月15日に初冠雪となり、記録的な暖冬・少雪の影響で、積雪深は平均値を下回ったまま推移しました。3月24日に今冬期の最大積雪深176cm（※昨期は4月3日に266cm）を記録し、令和2年4月15日9時現在の尾瀬沼地点の積雪深は、152cm（平均値に対する割合は75%）となっています。（表－2、図－2参照）

表－2 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深

観測所名	時 点	積雪深	今期最大積雪深 (発生日)
藤 原 ダ ム (標高 667m)	令和2年 4 月 15 日 9 時現在	0 cm	31cm(2月 11 日)
	S34～R1 の 4 月 第 3 半 旬 末 平 均 値	7 cm	
尾 瀬 沼 (標高 1666m)	令和2年 4 月 15 日 9 時現在	152 cm	176cm(3月 24 日)
	S30～R1 の 4 月 第 3 半 旬 末 平 均 値	204 cm	



図－2 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深図
(令和2年4月15日9時現在)

※過去及び平均のデータは半旬末の値

3) 各観測所の積雪の状況

奥利根流域における積雪観測所の令和2年4月15日9時現在の積雪状況は、記録的な暖冬・少雪の影響で、同時期の平均積雪深を下回っている観測所が多く、残雪が少ない状況となっています。(図-3、図-4 参照)

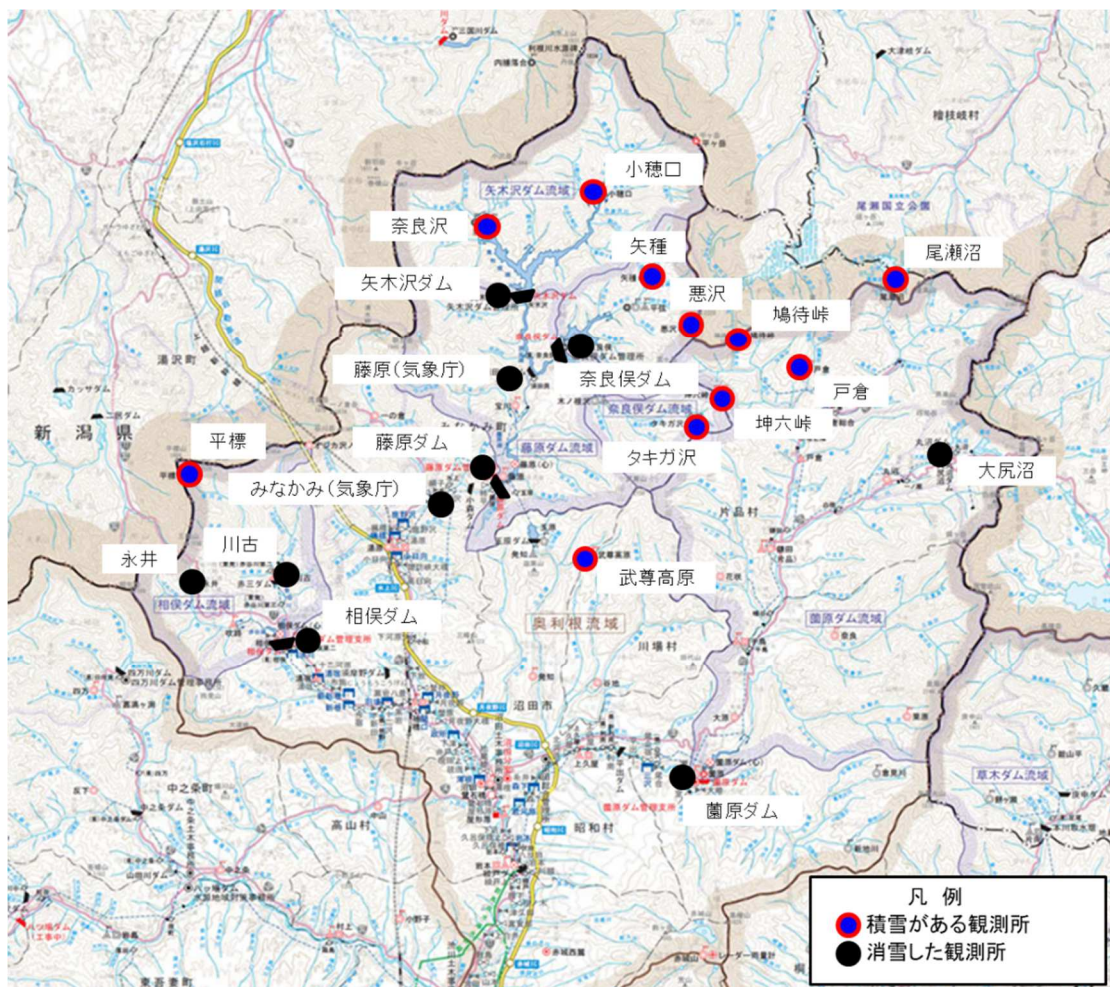


図-3 積雪観測所位置図

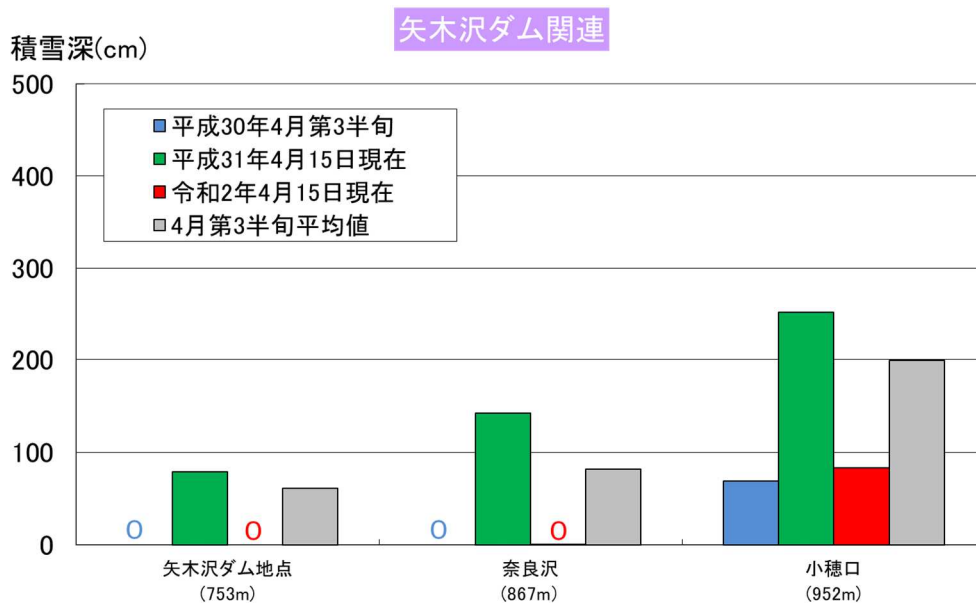
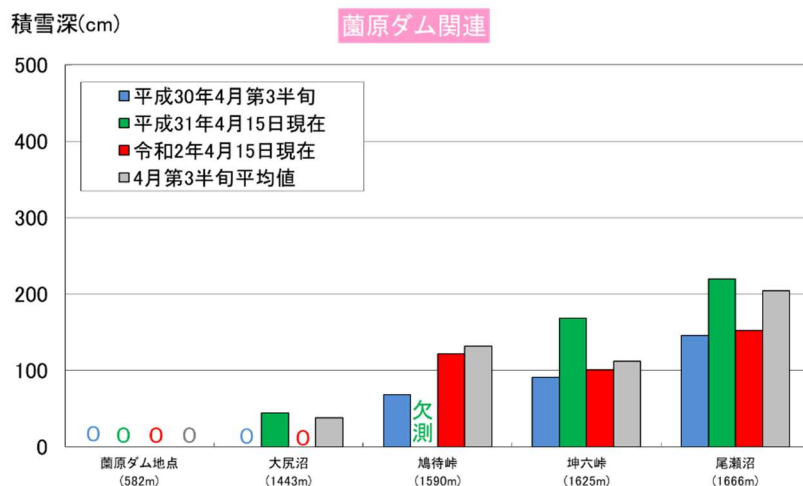
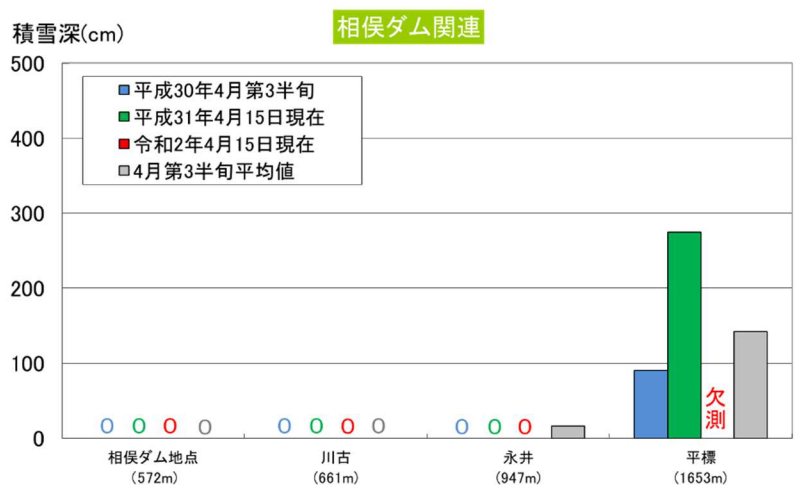
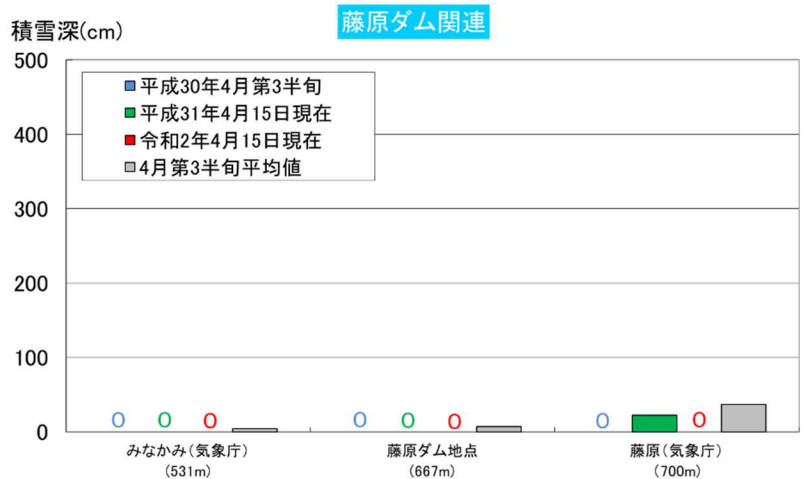
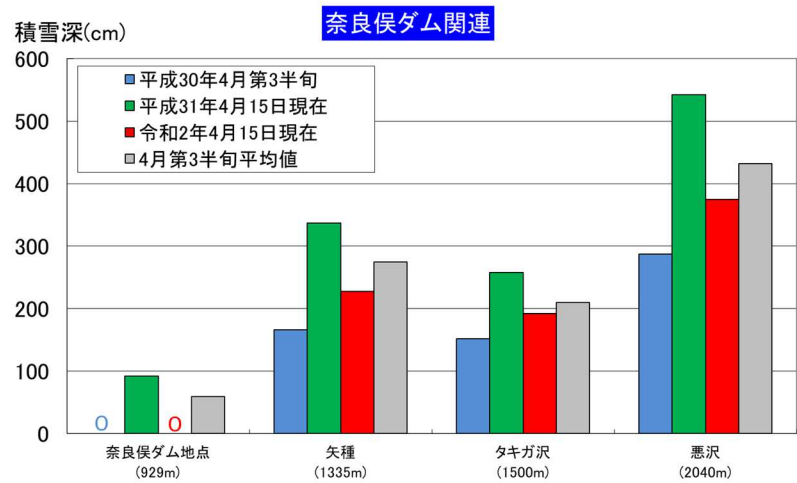


図-4 各観測所の積雪深状況 (1) (令和2年4月15日現在)



図－4 各観測所の積雪深状況（2）（令和2年4月15日現在）

4) 利根川上流9ダムの貯水状況等（令和2年4月14日0時現在）

《令和元年》

10月以降は令和元年東日本台風（台風19号）、低気圧による大雨等のまとまった降雨により、利根川上流8ダム合計貯水量は、平均値を上回る4億m³以上の貯水量で推移しました。

《令和2年》

1月からダム補給により貯水量が減少しましたが、今冬の利根川上流域の暖冬・少雪を踏まえ、北千葉導水路等の運用強化、3月10日からハッ場ダムを貯留開始するなど早期貯留に努め、4月14日0時現在の利根川上流9ダムの合計貯水量は、4億9,297万m³、貯水率は89%（貯水量の平均値（平成4年～令和元年）に対する割合は153%）となっています。（表－3、図－5参照）

なお、奥利根5ダムの合計貯水量は2億5,864万m³、貯水率は98%となっています。

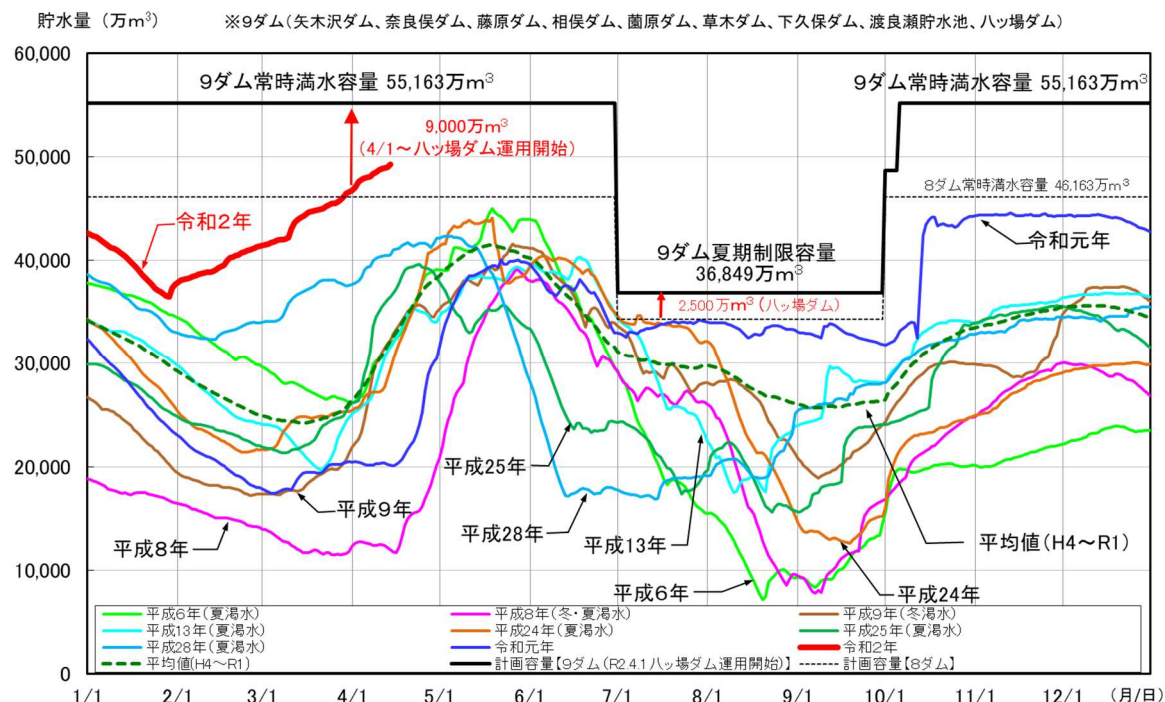
表－3 利根川上流9ダム貯水量（令和2年4月14日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)	前日補給量 (万m ³ /日)
矢木沢ダム	11,550	11,405	99%	-14
奈良俣ダム	8,500	8,419	99%	-2
藤原ダム	3,101	2,899	93%	-26
相俣ダム	2,000	1,962	98%	-4
蘭原ダム	1,322	1,179	89%	-2
5ダム合計	26,473	25,864	98%	-48
ハッ場ダム	9,000	4,436	49%	-148
下久保ダム	12,000	11,817	98%	-30
草木ダム	5,050	4,910	97%	4
渡良瀬貯水池	2,640	2,270	86%	-50
9ダム合計	55,163	49,297	89%	-272
8ダム合計の平均値 (平成4年～令和元年)		32,225	(平均値に対する割合 153%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

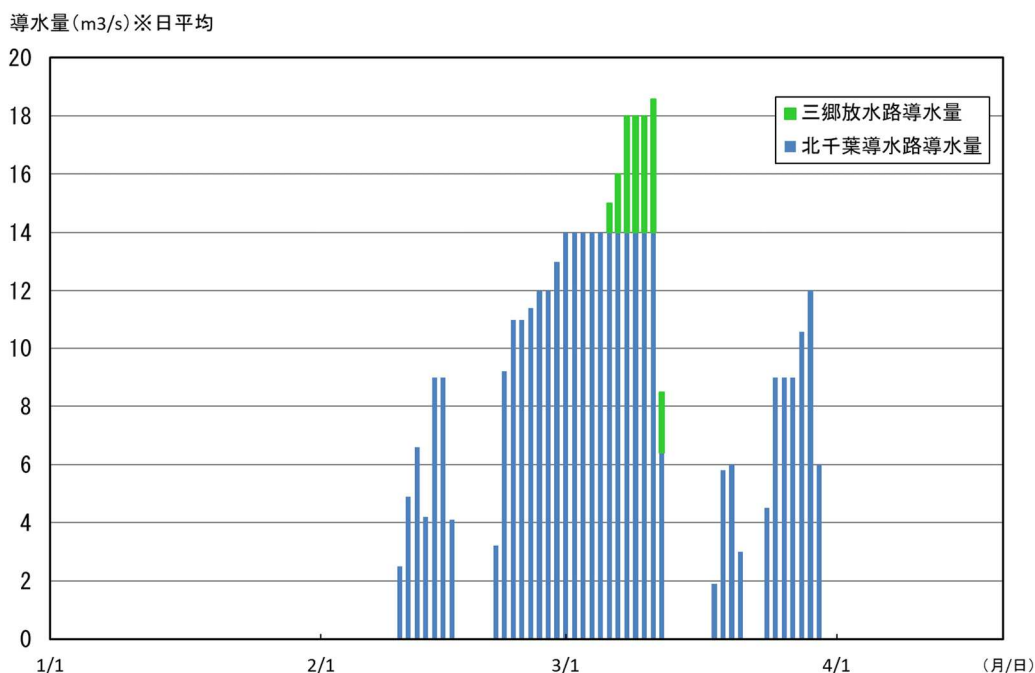
※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）



図－5 利根川上流9ダム貯水容量図（令和2年4月14日0時現在）

5) 北千葉導水路、三郷放水路の運用状況

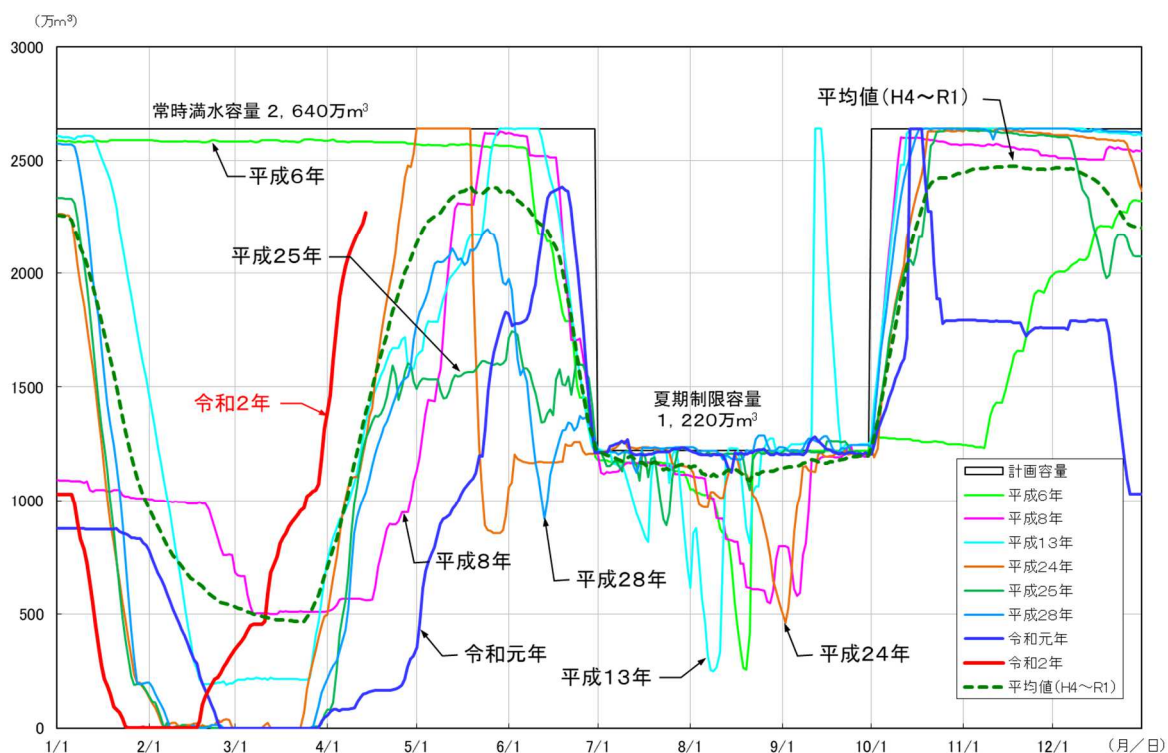
年明けからの少雨及び今冬の利根川上流域の暖冬・少雪を踏まえ、2月上旬より北千葉導水路、3月上旬より三郷放水路により江戸川への導水を開始し、4月13日までの合計導水量は、約3,300万 m^3 （38日間）となっております。（図－6参照）



図－6 令和2年 北千葉導水路の運用状況（令和2年4月14日まで）

6) 渡良瀬貯水池の現状

渡良瀬貯水池は水質改善のため、平成9年から利根川の流況を見ながら「干し上げ」を行っています。令和2年の干し上げについては、令和元年12月19日より下流に向け補給しつつ水位を下げ、干し上げを実施しました。その後、例年より約1ヶ月半早い2月17日より貯留を開始し、令和2年4月14日0時現在の貯水量は、2,270万 m^3 、貯水率は86%（貯水量の平均値（平成4年～令和元年）に対する割合は163%）となっています。（図－7）



図－7 渡良瀬貯水池貯水量図（令和2年4月14日0時現在）

(2) 鬼怒川

1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和2年4月13日までの降水量）

《令和元年》

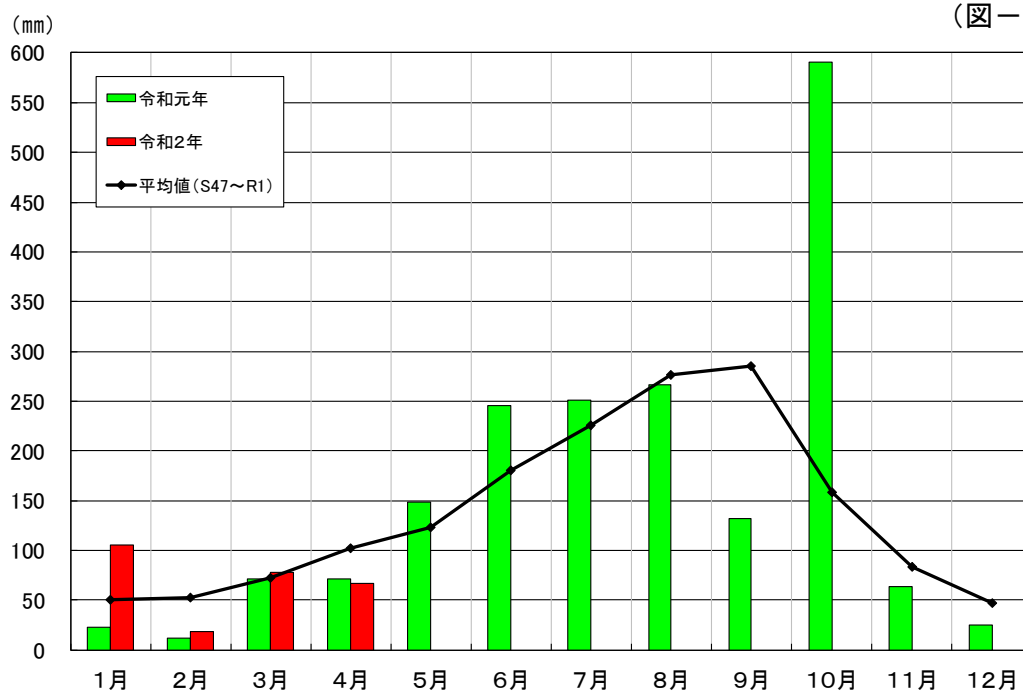
10月は令和元年東日本台風（台風19号）等の影響により590mm（平均値159mm）と平年を大きく上回りましたが、11月、12月は平均値を下回る降水量でした。

《令和2年》

令和2年に入り、1月は平均値の2倍程度の降水量となりましたが、2月は平均値の4割程度の降水量となりました。

4月の降水量は13日までの累加で67mmとなっています。（4月の降水量の平均値は102mm）

（図－8、表－4参照）



図－8 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量

表－4 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量[mm]（令和2年4月13日まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583	利根川・鬼怒川夏渇水
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140	利根川冬渇水 利根川・鬼怒川夏渇水
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525	利根川冬渇水 鬼怒川夏渇水
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980	利根川・鬼怒川夏渇水
平成24年	40	47	101	111	314	276	227	109	354	113	71	75	1,838	利根川夏渇水
平成25年	45	35	14	147	46	171	177	172	411	301	29	66	1,614	鬼怒川夏渇水
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392	鬼怒川夏渇水
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687	利根川・鬼怒川夏渇水
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653	鬼怒川夏渇水
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899	—
平均値 (S47～R1)	50	53	73	102	123	181	226	276	285	159	83	47	1,658	—
令和2年	106	19	78	67	—	—	—	—	—	—	—	—	270	—
平均値に対する割合 (%)	212	36	107	66	—	—	—	—	—	—	—	—	16	—

■：鬼怒川取水制限実施月（一時緩和含む）※佐貫地点上流域面積：940km²

2) 鬼怒川上流 4 ダムの貯水状況等（令和 2 年 4 月 14 日 0 時現在）

《令和元年》

10 月以降は令和元年東日本台風（台風 19 号）、低気圧による大雨等のまとまった降雨により平均値を大きく上回る貯水量で推移しました。

《令和 2 年》

令和 2 年に入ってから平均値を大きく上回る貯水量で推移し、令和 2 年 4 月 14 日 0 時の貯水量は 2 億 4, 8 0 6 万 m^3 、貯水率 98%（貯水量の平均値（平成 26 年～平成 27 年、令和元年）に対する割合は 108%）となっています。（表－5、図－9 参照）

表－5 鬼怒川上流 4 ダム貯水量

令和 2 年 4 月 14 日 0 時現在

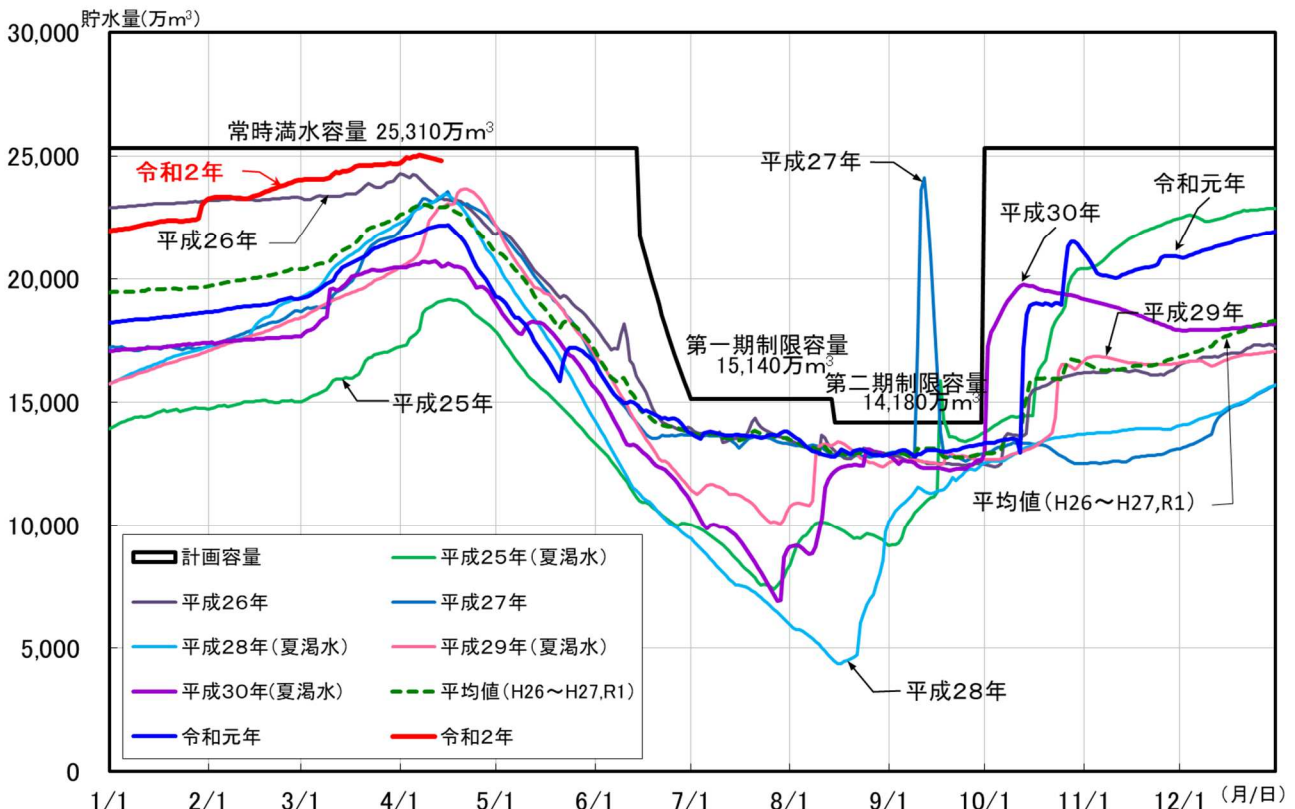
ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)
五十里ダム	3,200	2,858	89%	0
川俣ダム	7,310	7,172	98%	32
川治ダム	7,600	7,552	99%	6
湯西川ダム	7,200	7,224	100%	-12
4 ダム合計	25,310	24,806	98%	26
4 ダム合計の平均値 (平成26年～平成27年、令和元年)		22,899	(平均値に対する割合 108%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）

※データは湯西川ダムが完成して 4 ダムで運用している平成 25 年から集計し、平均値は渇水年であった平成 25 年、平成 28 年、平成 29 年及び平成 30 年は除いている。



図－9 鬼怒川上流 4 ダム貯水容量図（令和 2 年 4 月 14 日 0 時現在）

(3) 荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和2年4月13日までの降水量）

《令和元年》

10月は令和元年東日本台風（台風19号）等の影響により725mm（平均値160mm）と平年を大きく上回り、11月、12月は平均値程度の降水量でした。

《令和2年》

1月、3月は平均値を上回りましたが、2月は、11mmと平均値の3割程度の降水量でした。4月の降水量は、13日までの累加で107mmとなっています。（4月の降水量の平均値は94mm）

（図-10、表-7参照）

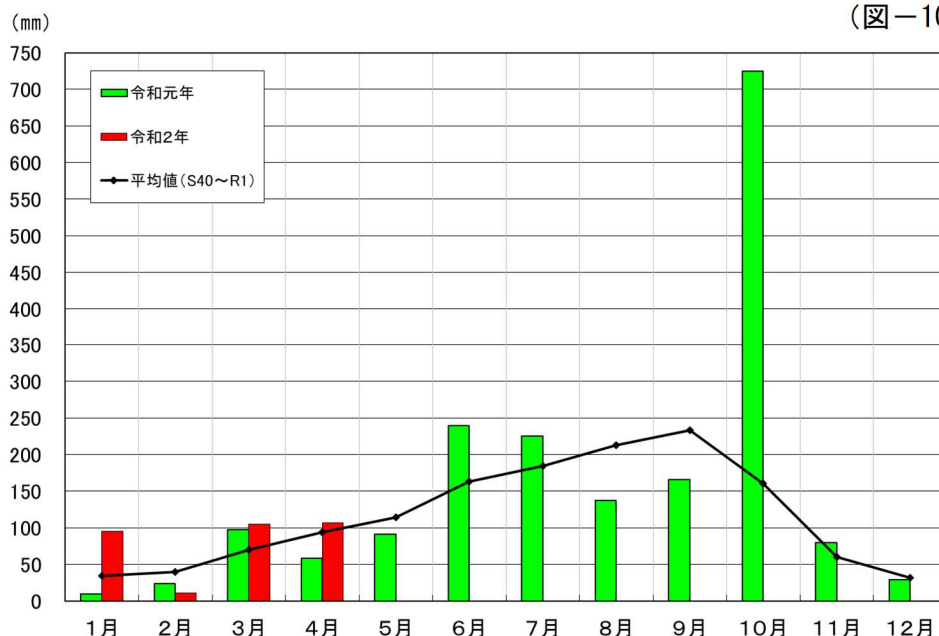


図-10 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量

表-7 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和2年4月13日まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏渇水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏渇水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏渇水
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川・荒川冬渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏渇水
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249	利根川夏渇水
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414	
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,437	荒川夏渇水
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881	—
平均値 (S40~R1)	34	40	70	94	114	163	184	213	233	160	60	32	1,397	—
令和2年	95	11	105	107	0	0	0	0	0	0	—	—	318	—
平均値に対する割合 (%)	279	28	150	114	0	0	0	0	0	0	—	—	23	—

※ ■ : 荒川取水制限実施月（一時緩和含む） 秋ヶ瀬地点上流域面積:2.021km²

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和2年4月14日0時現在）

《令和元年》

10月以降は令和元年東日本台風（台風19号）、低気圧による大雨等のまとまった降雨により平均値を大きく上回る貯水量で推移しました。

《令和2年》

令和2年に入ってから平均値を大きく上回る貯水量で推移し、令和2年4月14日0時の貯水量は1億3,532万 m^3 、貯水率94%（貯水量の平均値（平成22年～令和元年）に対する割合は142%）となっています。（表－8、図－11参照）

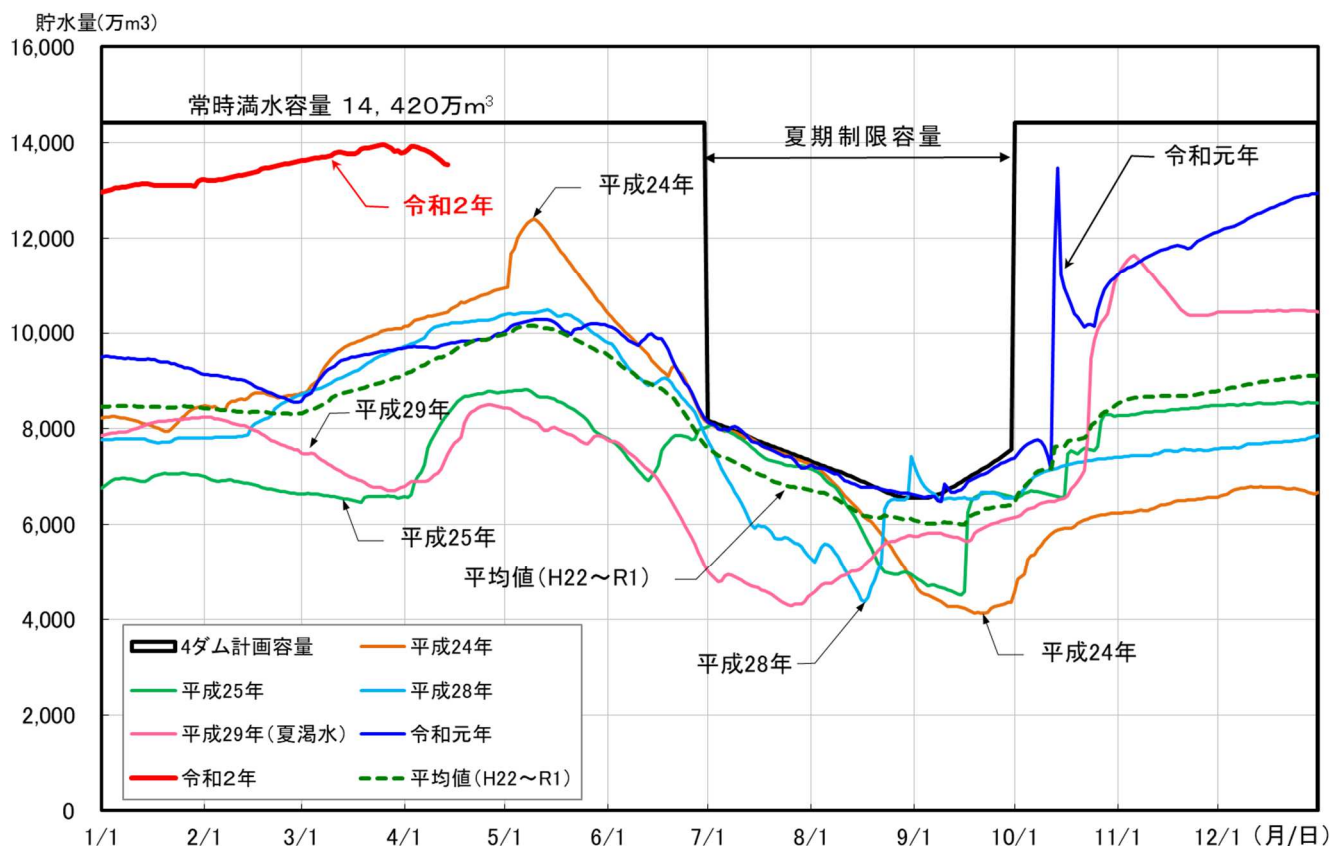
表－8 荒川4ダム貯水量（令和2年4月14日0時現在）

ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)
二瀬ダム	2,000	1,703	85%	8
滝沢ダム	5,800	5,757	99%	-3
浦山ダム	5,600	5,052	90%	7
荒川貯水池	1,020	1,020	100%	1
4ダム合計	14,420	13,532	94%	13
4ダム合計の平均値 (平成22年～令和元年)		9,556	(平均値に対する割合 142%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）

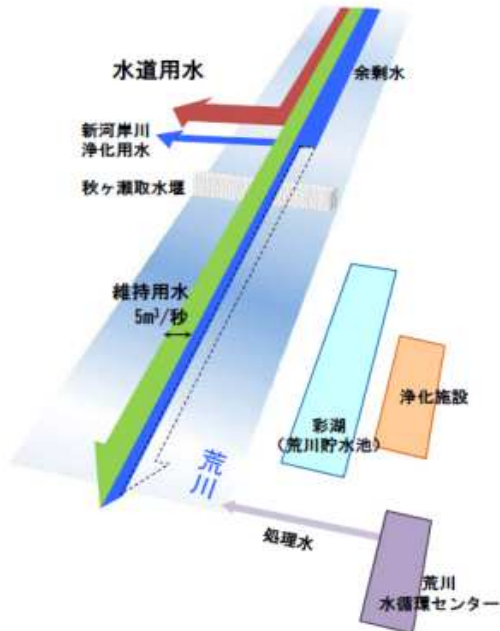


図－11 荒川4ダム貯水量図（令和2年4月14日0時現在）

3) 荒川第一調節池浄化施設の運用状況

荒川本川流量で水道用水が取水できるとき

- ・堰上流で必要な水量を取水します。
- ・余剰水は堰下流へ放流するとともに、新河岸川への浄化用水として利用します。
- ・彩湖の貯水量が少ない場合には彩湖に取水することもあります。



荒川本川流量で水が足りないとき

- 水道用水を確保するため、
- ・彩湖(荒川貯水池)から堰の上流に補給します。
- ・下水処理水を浄化施設に導水して浄化し、堰の下流に放流します。これにより、秋ヶ瀬取水堰は下流への放流量を減らすことが可能となり、結果として堰上流で水道用水の取水が可能となります。

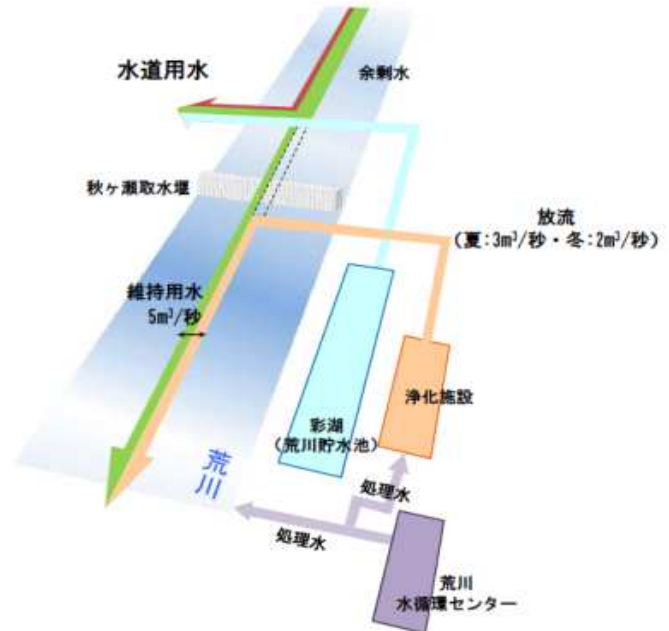


図-12 荒川貯水池及び浄化施設による利水補給

令和2年3月6日から4月13日までに約82万 m^3 (7日間)の補給をしています。(図-13 参照)

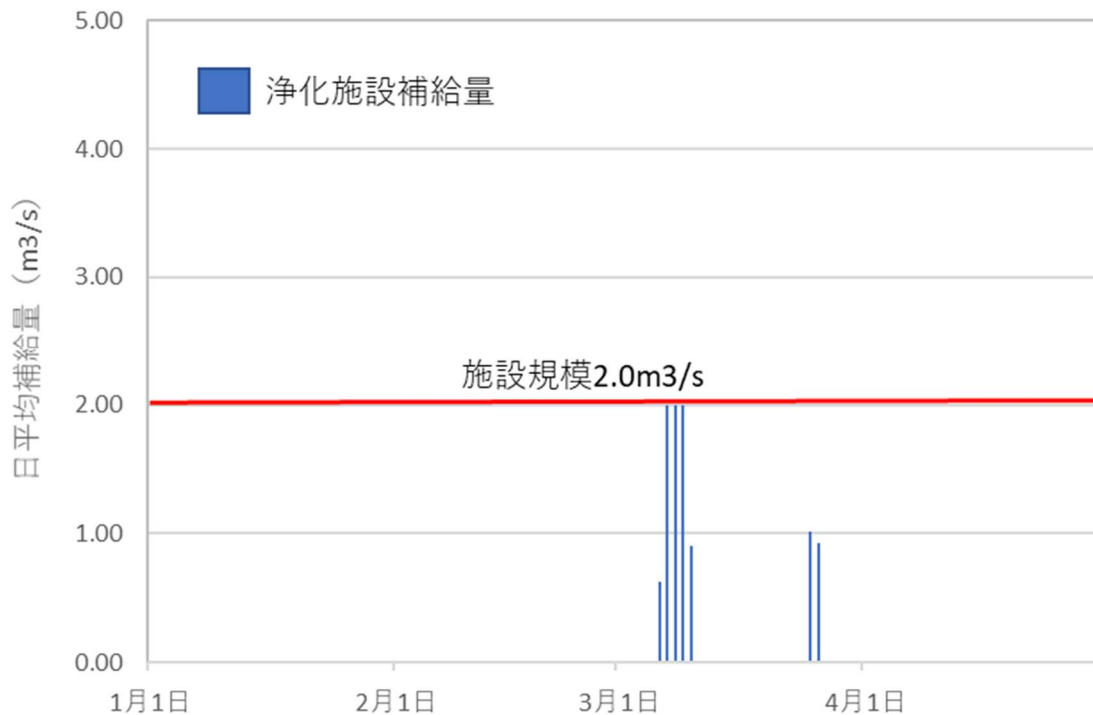


図-13 荒川第一調節池浄化施設の運用状況

(4) 多摩川水系

1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況 (令和2年4月13日までの降水量)

小河内ダム地点上流域平均降水量の令和2年4月の降水量は、13日までの累加で80mm (4月の降水量の平均値は110mm) となっています。(図-14 参照)

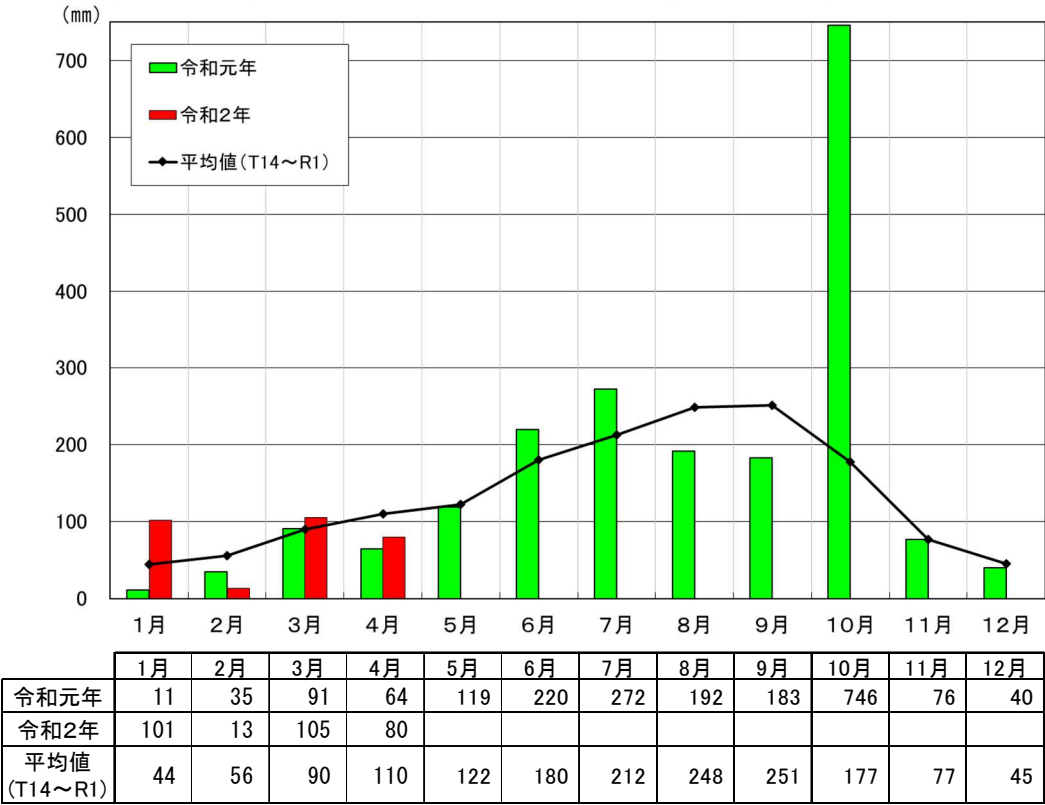


図-14 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量 (令和2年4月13日までの降水量)

2) 小河内ダムの貯水状況

4月14日7時現在の貯水量は、1億7,040万 m^3 となっています。(図-15 参照)

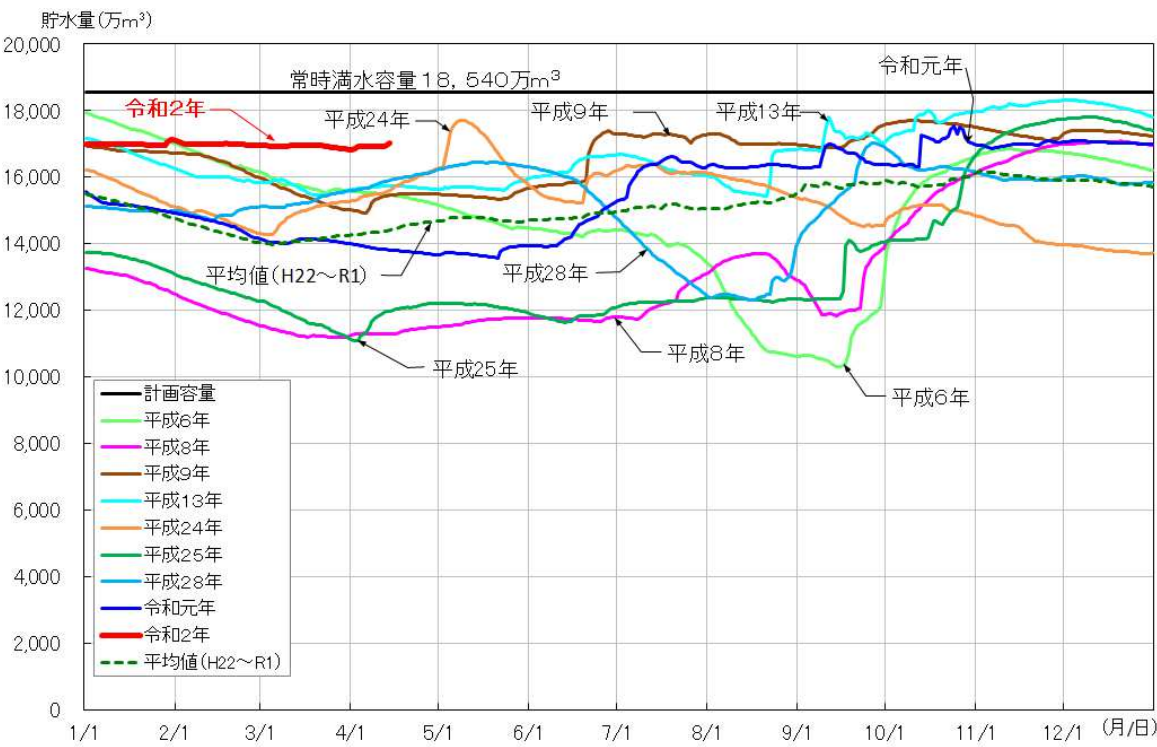


図-15 多摩川小河内ダム貯水容量図 (令和2年4月14日7時現在)

2. 今後の見通し

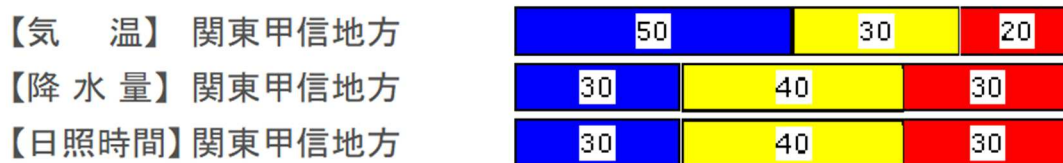
(1) 気象予報

令和2年4月9日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(4月11日から5月10日までの天候見通し)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多く、向こう1ヶ月の降水量は「平年並」の確率が40%となっています。また、3月25日気象庁発表の3か月予報(4月から6月までの天候見通し)によると、4月の天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多く、降水量は「平年並」の確率が40%となっています。5月の天気は数日の周期で変わり、降水量は「平年並」の確率が40%となっており、6月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、降水量は「少ない」の確率が40%となっています。

なお、2月25日気象庁発表の暖候期予報(6月から8月までの天候の見通し)によると、6月から7月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、その後は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は「平年並」の確率が40%となっています。

1か月予報(令和2年4月9日発表)

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

3か月予報(令和2年3月25日発表)

【降 水 量】

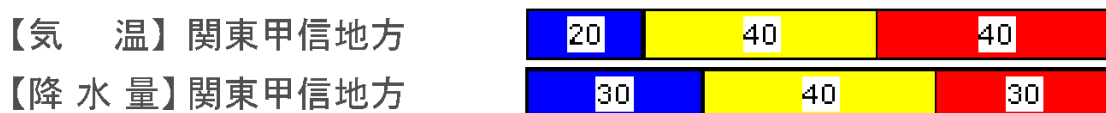
[関東甲信地方]



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

暖候期予報(令和2年2月25日発表)

〈夏(6月～8月)の気温、降水量の各階級の確率(%)〉



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

(2) ダム・貯水池の工事に伴う貯留制限

令和2年度は、令和元年東日本台風（台風19号）により被災した箇所の災害復旧工事やゲート補修工事等を行うことを検討しています。

利根川上流9ダムのうち、下久保ダムは、台風19号によりダム貯水池内に堆積した土砂の掘削工事を実施するため、10月から来年3月末まで貯水量を制限した運用を検討しています。菌原ダムは、施設の維持管理等に必要な工事を実施するため10月から来年2月末まで貯水量を制限した運用を検討しています。

鬼怒川4ダムのうち、川俣ダムについては、施設の維持管理等に必要な工事を実施するため9月から12月末まで貯水量を制限した運用を検討しています。

川治ダムについても、施設の維持管理等に必要な工事を実施するため10月から来年2月末まで貯水量を制限した運用を検討しています。

荒川4ダムのうち、二瀬ダムは台風19号によりダム貯水池内に堆積した土砂の掘削工事を実施するため、10月から来年3月末まで貯水量を制限した運用を検討しています。浦山ダムは、台風19号によりダム貯水池内に堆積した土砂の掘削工事を実施するため、10月は貯水量を制限した運用を検討しています。荒川貯水池は、台風19号により被災した流入堤の補修工事を実施するため、10月から来年3月末まで貯水量を制限した運用を検討しています。

なお、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が来年夏に延期されることになったことを受けて、令和2年度に貯留制限を予定している工事について後倒しできるか等、関係機関と慎重に検討していきます。

関東地方の主要な河川と水資源開発施設

